



持続可能な「加美農米」の生産を目指して ～水田の環境保全活動の取り組み～

加美農米

宮城県加美農業高等学校 作物専攻班
代表 農業科 増子晴琉



取り組みの背景・目的

加美農米を生産する圃場環境には、今も尚、土工水路が残されており、水路や水田には絶滅危惧種や希少生物が数多く生息している。

近年の異常気象や米価の高騰に対して、環境に配慮した稻作栽培の実践と全国的にも貴重な自然環境を守る取り組みに挑戦し、多くの方々に自然環境や生産現場に目を向けてもらうことを目指しました。

★食料システム戦略に基づき、環境負荷低減の取組として、「農産物の環境負荷低減に関する基準」に基づき、「温室効果ガス削減への貢献」や「生物多様性の保全」を実践

実践例

計画的な水田の耕起作業・中干し作業によるメタンガス削減

土工水路の維持管理や圃場整備・消費者約50名を招待しての加美農フェスタ(水田生き物調査)実施

実践 加美農でしか見れない世界



アカハライモリ・トウキョウだるまガエル・仏ドジョウ・ホウネンエビ・ゲンゴロウなど
30種類以上が生息



成果 消費者に安心を届ける活動



持続可能な加美農米生産を目指して

★現在30by30を目指したロードマップ作りに挑戦中
生物多様性と持続可能な生産圃場環境を守る

★ドローン散布・水管理センサーの導入による作業効率UP・
労働力の軽減・生産性向上を図る取組

★ASIAGAPの実践による安心安全な作業実践
作業の見える化による資材コストの軽減
作業リスクを抑えた安心安全な生産

計画

① 環境保全を目指した取り組みを実践して見える化ラベルのPR



② 自然生態系維持を目指した取り組み



環境保全取り組み実践

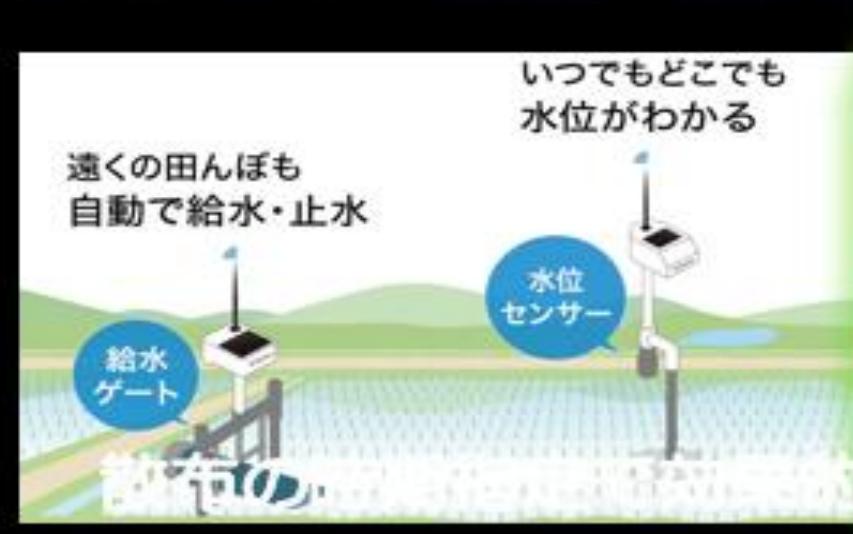


ドローン散布
水管理センサー利用

成果 作業時間の効率UP



ドローン散布 1ha
10分！！



自動水管理 作業時間
1分！！
時間短縮！！

成果

見える化ラベルを貼って販売PR



安心安全な加美農米
を届ける



環境に配慮した栽培があることを知りました

★まとめ

環境に配慮した栽培や自然生態系を守り続けていくことが持続可能な加美農米生産に繋がると確信しています。生産者が消費者に生産現場の実態を発信し続けていく必要があります。